

第1学年1組 生活科学習指導案

指導者
学習指導補助員

1 単元名 だいすきだよ

2 目標

キャリアの視点 単元の目標	自分や友達のよいところに気付く。 1 - 自分の生活や成長を支えてくれている家族に感謝する。 1 - 自分の考えをみんなの前で話す。1 -	家族の様子や家庭の仕事に、興味・関心をもつ。 2 - 家庭での自分の仕事の大切さが分かる。 2 -	家庭での家族の役割の大切さが分かる。 3 - 自分でできる仕事を見つけ、家で実践するための計画を立て努力する。 3 -	これからも続けていく仕事を決めることができる。 4 - 自分で決めた仕事を実践しようとする。 4 -	
	家庭での生活や家族のことについて、興味・関心をもって取り組み、自分にできる役割を進んで果たそうとする。 (関心・意欲・態度)	自分の考えをみんなの前で進んで話そうとする。 1 -	家庭での生活や家族のことを進んで調べようとする。 2 -	家庭生活を支えている家族について進んで考えようとする。 3 - 自分でできることを進んで練習しようとする。3 -	自分の役割を、進んで果たそうとする。 4 -
	家族の役割や自分でできることを考え、家庭や家族のことについて調べたことや体験したことをまとめたり表現したりすることができる。 (思考・表現)	自分の生活や成長を支えてくれている家族に感謝の気持ちを表すことができる。 1 -	家庭や家族のことについて考え調べたことや体験したことを、まとめたり表現したりすることができる。 2 -	自分でできる仕事を実践するための計画を立てることができる。 3 -	自分でできる仕事を考えることができる。 4 -
	家庭生活は、家族の温かさや家族の仕事によって支えられていることに気付くことができる。 (気付き)	自分の成長や、家庭での自分の役割が分かり、自分や友達のよいところに気付くことができる。 1 -	家での自分の仕事や役割の大切さに気付くことができる。 2 -	自分の生活や成長は、家族の温かさや家族の仕事によって支えられていることに気付くことができる。 3 -	家庭の仕事の分担は、家族みんなが楽しく生活していくために行うことに気付き、自分の仕事を決めることができる。 4 -

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」及び(8)「多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。」を受け、設定したものである。

この時期の子供たちは、家族に全面的に依存しており、家族や家庭のよさを感じたり、自分にも家庭でできることがあることに気付いていないことが多い。そこで、こ

の単元を通して、家庭の温かさや家族の大切さに気付き、家庭での家族の役割の大切さを理解し、自分でできる仕事を自ら見つけ、自主的、自発的に取り組むことができるようにしたい。そして、自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもって生活する態度を育て、自立への基礎を養っていききたい。

キャリア教育の視点から考えると、やりがいや喜びを感じ、仕事や役割に自主的、自発的に取り組む児童を育てるために、家庭での家族の役割の大切さが分かり、自分にできることを考え、自分の役割を進んで果たそうとすることを、本単元の柱としてとらえた。

(2) 児童の実態 (在籍人数：36名) (調査実施日：10月16日 対象：36名)

家の仕事をやっていますか。	
毎日決めたことをやっている 8名	ほとんど毎日やっているが、時々忘れてしまう 10名
頼まれたときにはやる 18名	やっていない 0名
どんな仕事をしていますか。(複数回答)	
食器運び 21名	テーブルふき 21名
洗濯物たたみ 21名	新聞取り 19名
カーテン、シャッターの開け閉め 16名	風呂掃除 17名
食器洗い 15名	玄関掃除 10名
その他 8名	
その仕事をし始めたのは、なぜですか。	
やるように言われたから 14名	家族が大変そうだから、家族の喜ぶ顔を見たいから 14名
おもしろそうだったから 8名	
その仕事をするときどんな気持ちですか。	
楽しい、おもしろい 11名	家の人に喜んでもらいたい、ほめてもらいたい 11名
いつもありがとう(家族への感謝) 10名	面倒 4名

実態調査の結果から、家庭で自分の役割がある児童が半数おり、毎日継続して取り組んでいる児童も8名いる。しかし中には、「頼まれたときにはやる」など、自分から気付いて取り組むことができている児童も半数いることが分かる。の仕事をやりたいと意識を高めると、大変そうな家族を助けようという思いや、家族の喜ぶ顔を見たいという思いで始めた児童が14名いるが、言われたからやっているという児童も同数いる。この児童のほとんどはで頼まれてからやると答えた児童であり、やり始めたきっかけと仕事への取り組み方との関連が分かる。の取り組む際の気持ちでは、楽しさ、おもしろさを感じたり、家族への思いやり、感謝の気持ちをもったりして自分の役割を果たそうとしている児童が32名いる。しかし中には面倒に思い、いやいや取り組んでいる児童も4名いる。

小学校生活に慣れてきたこの時期の子供たちは、好奇心旺盛で自分でできることもかなり増え、学校生活においては、自分のことは自分でしようという心掛けが行動をとまなげて現れてきている。反面、日常生活の場であり、自分を支えてくれる居場所である家庭においては、学校でできることも、家族に頼りすぎているという一面があることが、保護者との情報交換を通してうかがえる。7月から活用してきたお手伝い帳を見ると、「いつもありがとう。」「とっても助かっているよ。」という保護者からの賞賛のコメントと同時に、「自分から進んでやってくれるとうれしいな。」とか「目立たない仕事もとても大切な仕事なんだよ。」という願いや助言も書かれていた。このことから、児童は家庭の中での仕事に取り組むことで、やりがいや気持ちのよさを感じてはいるものの、毎日継続する仕事に対しては、徐々に興味が薄れてきたり、飽きてしまってきたりしていると考えられる。

(3) 指導観

児童が、生活技能を身に付けて、家庭で自分にできる仕事に対してやりがいを感じながら進んで行うようになるためには、まず、家庭の温かさや家族の大切さに気付かせるような活動が必要である。そのために、家庭での仕事調べで家庭生活を振り返り家族のことや家族の一員としての自分について考えさせるようにしたい。そこから、仕事を通して家族のために役に立ちたいという自主的、自発的に取り組む姿勢を育てたい。そして、生活技能を身に付けていくことで、自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもって生活する態度を育てていききたい。

また、学習を通して児童が自分自身の成長や変化を実感できるようにし、これからの自分の成長への願いや夢を膨らませることができるようにしたい。

4 単元の指導計画（8時間扱い） は本時

次	時	学 習 内 容	関	思	気	1	2	3	4
1	1	夏休みに家庭でした手伝いや、普段している仕事などを思い出し、カードにかいて伝え合う。							
	2	家族の様子から、普段している家庭での仕事を取り上げ、家庭での家族の仕事を探る計画を立てる。							
2		家の仕事を各自調べてくる。							
		自分が見つけてきた仕事を紹介し合い、自分ができる仕事を見つける。							
	4	自分が選んだ仕事を練習しあう。							
	5	仕事を紹介しあう。							
3		学校で練習した仕事や、他にもできることを自分で見つけて、家庭での仕事を継続して行い、実践内容を記録する。							
	6	家で仕事をした感想を発表し合う。							
	7	家族と一緒にしたことや、してもらってうれしかったことなどを話し合い、家族に喜んでもらえることを見つける。							
	8	これからも続けていくことを考え、仕事がんばり表を作る。 家の人へ、自分の気持ちを書いて渡す。							

キャリア教育の視点 1 人間関係形成能力, 2 情報活用能力, 3 将来設計能力, 4 意思決定能力
(かかわる力) (見つける力) (えがく力) (もとめる力)

5 本時の活動

(1) 目 標

家族の仕事について調べた内容や家族の話から、家族が自分の生活を支えてくれていることに気づき、家族の一員として自分ができることを考えることができる。

キャリア教育の視点

- 1 - 自分や友達のよいところに気付くことができる。
- 3 - 家庭生活は、家族の温かさや家族の仕事によって支えられていることに気付くことができる。
- 4 - 家族の一員として自分ができることを考えることができる。

(2) 学校教育方針の努力事項との関連

「自立への基礎を養う指導方法の工夫改善」という努力事項に対して、以下の取組を行う。

- ・ 家族の様子や家庭の仕事に興味・関心をもち、児童自身で家族の役割の大切さに気付くことができるように、各家庭での家族の仕事を探る活動を取り入れる。
- ・ 児童が家庭の温かさや家族の大切さ、家族の役割の大切さに気付くことができるように、保護者出演のVTRを觀賞する時間を設ける。

(3) 本校の学校教育目標との関連

「自ら学び自ら考える」という学習面での学校教育目標に対して、以下のような学習指導の具体的な工夫を行う。

- ・ 家族の様子や家庭の仕事に興味・関心をもち、家族のために自分ができることを児童自身で考えることができるように、各自調べてきた家庭での仕事を紹介し合う学習を取り入れる。

(4) 準備・資料

- ・ OHC ・ 電子情報ボード ・ VTR ・ ワークシート ・ シール

(5) 展 開

学習活動・内容	教師の支援・評価
1 本時の1つ目の課題をつかむ。 じぶんのかぞくのやりわりについてかんがえよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が課題として行った家族の仕事調べを用いて、それぞれの家庭での家族の役割について考えていくことを伝え、意欲を高める。 ・ 各家庭に連絡をして協力を募り、児童が家庭での仕事調べで、様々な仕事に気付けるように配慮する。 ・ やっている人ごとに色の違うシールを貼らせ、比較しやすくすることで、自分の家庭での家族の役割分担がどのようになっているかということに児童自ら気付くことができるようにする。 ATは、分かったことや感じたことを書くことができない児童に対して、シールの数を一緒に数え、仕事を多くやっている人に児童が気付けるよう支援する。
2 調べてきた家族の仕事をやっている人ごとに分類し、分かったことや感じたことをワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ OHCを活用することで、児童の発表意欲を高めるとともに、他の児童が発表内容をよく理解したり、自分のものと比較したりできるようにする。 ・ 児童が各々の調べ活動を認め合うような雰囲気を作り自分や友達のよいところを見つけることができるようにする。 自分や友達のよいところに気付くことができたか。 1 - (発言・ワークシート)
3 分かったこと、感じたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族が自分の生活を支えてくれていることに気付くことができたか。 3 - (発言・ワークシート)
4 本時の2つ目の課題をつかむ。 かぞくのためにじぶんができるしごとをかんがえよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で練習する時間をとることを伝え、今まで取り組んできた仕事よりも少し難易度が高いものに挑戦してみたいという意欲をもたせるようにする。
5 自分ができる仕事を考え、ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な仕事が見つからずにいる児童には、調べてきた仕事に目を向けて、興味のある仕事や自分ができるような仕事を見つけるように助言する。 家族の一員として自分ができることを、自ら見つけることができたか。 4 - (ワークシート)
6 保護者出演のVTRを見る。 ・ お手伝いをしてもらったときの気持ち ・ 家族への思い	<ul style="list-style-type: none"> ・ お手伝いをしてもらったときの保護者の気持ちを知ること、児童が抱いた家庭での仕事への意欲が、更に高まるようにする。 VTRを見る際には、お手伝いをしてもらったときの保護者の気持ちという見る視点を助言することで、保護者の思いを感じ取れるようにする。 ・ お手伝いをしてもらったときの保護者の気持ちに加え保護者の思いにも触れ、家庭の温かさや家族の大切さに気付けるようにする。
7 次時の活動内容について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、自分がやってみようと思った仕事を学校で練習する活動であることを伝え、児童が活動意欲を持続できるようにする。 現在、家の仕事をしてしている児童には、次時で活躍の場を設けることを伝え、今までの頑張りを認めるようにする。

個への対応 評価の観点